第１回桐生市総合計画審議会（令和８年度第１回桐生市総合戦略推進委員会）
開催結果報告書

○日　　時　　令和８年１０月２７日（火）午後２時～午後３時５０分

○場　　所　　桐生市役所　４階　第１・２委員会室

○出 席 者　２５名

【審 議 会】　１８名

会　長：	桐生市教育委員会　教育長職務代理者	板橋　英之
副会長：	一般社団法人きりゅう市民活動推進ネットワーク理事長	近藤　圭子
委　員：	桐生商工会議所　副会頭	笠原　康利
	桐生市農業委員会　会長	今泉　芳雄
	桐生市林政コーディネーター	宮田　栄一
	桐生市観光物産協会　代表理事	新見　直広
	桐生信用金庫　常務理事	坂場　清二
	桐生市子ども・子育て会議　委員	新居　理恵
	一般社団法人桐生市医師会　理事	星野　仁
	学校法人角川ドワンゴ学園Ｒ高等学校　副校長	村木　孝広
	国立大学法人群馬大学／大学院理工学府　教授	天谷　賢児
	UNIT KIRYU 株式会社　代表取締役社長	川村　徳佐
	むすびすむ桐生　チーフコーディネーター	川口　雅子
	株式会社FM桐生　アナウンサー	宮坂　あつこ
	桐生市区長連絡協議会　会長	朝倉　富美夫
	群馬県桐生みどり振興局　局長	石橋　幸子
	公募市民	山口　典利
	公募市民	徳田　秀和
（欠席者）	社会福祉法人桐生市社会福祉協議会　会長	髙松　富雄
	有限会社COCO-LO　代表取締役	雅樂川　陽子

【桐 生 市】　６名

	市長	荒木　恵司
＜事務局＞		
	共創企画部長	三田　善之
	共創企画部企画課長	大澤　善康
	共創企画部企画課係長	曽我　延博
	共創企画部企画課企画戦略担当	佐藤　創太
	共創企画部企画課企画戦略担当	金子　裕平

【計画策定支援事業者】　１名

有限責任監査法人トーマツ

【傍 聴 者】　１名

【報道機関】　２社

○会議内容

１　開　会　［ 開始：午後２時 ］

２　委員の委嘱

・荒木市長より委員へ委嘱状を交付。

３　市長挨拶

・荒木市長より挨拶。

４　自己紹介

・委員及び事務局の自己紹介。

５　会長及び副会長の選出

・事務局案について委員の了承を得て、会長に板橋委員を選出。
・会長の指名により、副会長に近藤委員を選出。
・会長及び副会長は、総合戦略推進委員会の委員長及び副委員長をそれぞれ兼ねる。

６　諮　問

・荒木市長より審議会（会長）へ諮問。

７　議　題

・事務局より、開会時の出席委員が２０名中１７名であり、過半数に達しているため会議が成立している旨を報告。
・会長が議長を務め、議事を進行。
・会議を公開とすることについて、委員の了承を得た。

（１）「(仮称）桐生市第七次総合計画」の策定について（資料１・資料２）

・総合計画・総合戦略及び新計画の策定方針について説明。令和１０年度を初年度とする新計画を策定し、総合戦略及び人口ビジョンを一体化する。

（２）「(仮称）桐生市第七次総合計画」策定に向けた取り組み状況について（資料３）

・各種アンケート、若者・市職員ワークショップ、市民提言、基礎調査、現行計画の評価・検証及び今後の予定スケジュールについて説明。
・意見、質疑応答は以下のとおり。

会長	人口減少問題を最重要課題としているが、現在暮らす市民の幸福を最大化し、その結果として住みたいと思う人が増える方向で計画を考えるべきではないか。最重要課題とする位置付けは変更できないものなのか。
事務局	策定方針は庁内で決定したものであり、基本的な考え方として人口減少問題を最重要課題として位置付けている。一方、その課題を捉えつつ、市民の幸福を起点として議論を進めることに問題はない。

（３）第２期桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略の令和７年度評価検証について（資料４～資料６）

・総合戦略及び交付金活用事業の評価検証、令和７年度決算・令和８年度進捗状況について説明。
・意見、質疑なし

（４）桐生市過疎地域持続的発展計画の令和７年度評価検証について（資料７）
・基本目標の達成状況及び各分野の対策の実施状況について説明。
・意見、質疑応答は以下のとおり。

委員	会議の進め方は今後もこのような形で進めるのか。
会長	本日は委員の顔合わせと現行計画の報告である。次回から新たな計画についての議論を行っていただく。
委員	人口減少は桐生市だけでなく、日本全体の課題である。人口減少への対応に偏るのではなく、市民が生き生きと生活できるまちや、桐生市の将来を前向きに考える議論の場とすることが望ましい。
委員	全国的に人口が減少する中、桐生市の魅力を高め、子どもたちに将来への希望を示すことが重要である。その実現に向けた議論を進める委員会としてほしい。
委員	人口減少だけに焦点を当てるのではなく、現在暮らす市民が楽しく、生き生きと生活できることを重視したい。その魅力が伝わることで人が集まることにもつながると考えるため、前向きな方向で議論を進めたい。

（５）板橋会長より提案（別紙「会長当日配布資料」）
・１０年後の理想像を明確にし、そこから逆算して基本計画を組み立てるバックキャスティングの考え方を取り入れたい。施策・事業はPDM（プロジェクト設計マトリックス）を用いて、上位目標、プロジェクト目標、成果、活動の関係を整理し、市民の暮らしに生じる変化を評価するものとしたい。
・また、行政がたたき台を作成し、各課で点検した上で、市民の意見を適切に取り入れながら検討を深め、その結果を審議会で審議する進め方を提案する。市民参画の具体的な手法については、今後の検討状況等を踏まえて整理する。成果の検証に基づき、施策・事業を毎年度柔軟に見直すことも提案する。
・意見、質疑応答は以下のとおり。

委員	提案された方向性には賛成する。一方、国の交付金を活用する事業では、既にKPIが設定されていると思う。PDMを導入する場合、既存の評価指標との整合を図ることが課題になるのではないか。市としての考えを伺いたい。
事務局	現在交付金を活用している事業は、次期総合計画・総合戦略の開始までに完了すると見込まれるため、現在のKPIが支障となることはないと考えている。提案された進め方は大変な作業になるが、市民の納得感や委員の参画意識の観点からも重要であると考える。
会長	他自治体における参考となる事例があれば、計画策定支援事業者から紹介してほしい。

計画策定支援事業者	他自治体の計画には様々な形があり、そのまま桐生市に適用できる事例があるとは限らないが、審議の進捗に応じて、参考となる事例や手法を企画課を通じて情報提供する。
副会長	市民の提言を生かすとともに、行政として必ず盛り込むべき施策や、市としての考え方も説明し、相互に理解しながら計画を進めることが重要である。
委員	提案された方向性には賛成するが、その前提となる「勝手に総合計画」の内容について、委員にもう少し紹介してほしい。
会長	「勝手に総合計画」は、市民有志が令和７年４月に立ち上げ、準備委員会を含め２５回の会議を通じて取りまとめたものである。教育・文化、暮らし、産業・観光、都市基盤の４分野で将来ビジョンを描き、その実現に必要な施策や現状の課題を整理した。 提言書は委員に PDF で共有する。行政として必要な施策の不足等については市で確認し、追加するなどして、より良い計画につなげたい。
委員	群馬県では、ビジョンや計画を広く発信する一方、具体的な事業を整理した総合戦略を交付金の申請に活用している。 また、今回の提言作成に参加していない委員もいるため、目標や施策の検討に進む前に、将来ビジョンについて十分に議論する機会を設けることが重要である。
委員	今後１０年間は、人口減少や AI の進展により社会や価値観が大きく変化すると考える。一方、その変化は桐生市にとって大きな機会でもある。市民の意見を聞きながら、住みたい、教育を受けたいと思える、将来に夢を持てるまちの実現を目指したい。

８　その他

・会議の開催結果は市ホームページで公開し、発言者の氏名は伏せて公表する。委員名簿は、氏名及び選出団体のみ公表する。
・次回審議会は令和８年１２月下旬を予定し、候補日時についてアンケートを実施した上で、参加人数等を考慮して決定する。
・委員報酬は令和８年１１月１０日（火）に指定口座へ振り込む予定であり、金額等は当日配布の参考資料で確認するよう案内した。

９　閉会　［ 終了：午後３時５０分 ］

以　上